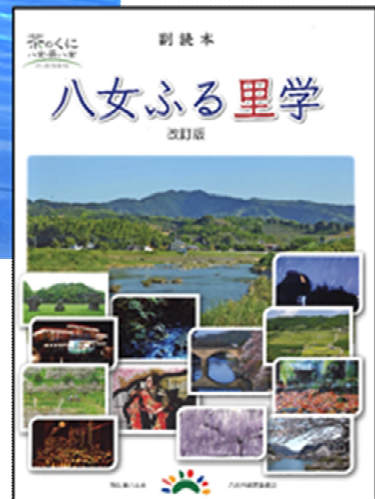


令和8年度

八女市の学校教育



【八女市教育の日事業】八女市を愛しふるさとに誇りを持つ子ども達を育むために実施し、子ども達が様々な学習の成果を発表する場となっています。

【八女ふる里学】八女の自然、歴史、産業、まつり、郷土の先人などに関する学習を深めるための副読本として平成27年3月作成、令和8年3月改訂。八女のよさを見つけ、ふる里八女に対する誇りと愛情を育むことを目的とする授業を実施しています。

八女市教育委員会

八女市教育大綱

1 八女市総合計画の将来都市像（ビジョン）

ふるさとの恵みと誇りを未来につなぐ 安心と成長のまち 八女

2 教育の基本目標（基本目標）

教育分野の基本目標

ふるさとを愛する人づくり

3 教育目標（教育施策要綱中の八女市の教育目標）

本市は、教育行政を総合的に推進するために、次の4つを教育目標とします。

- 生きる力（確かな学力、豊かな心、健やかな体）を育むまちをつくる
- 市民が生涯にわたって学び活躍をするまちをつくる
- 歴史と伝統に育まれた“八女文化”が生きるまちをつくる
- スポーツの力で、健康なまちをつくる

八女市教育の日を定める条例

平成16年3月 制定

（趣旨）

第1条 八女市民の教育に対する関心と理解を深め、本市教育の充実と発展を図るとともに、本市を愛しふるさとに誇りを持つ子ども達を育むために、八女市教育の日を設ける。

（八女市教育の日）

第2条 八女市教育の日は、11月5日とする。

（八女市教育週間）

第3条 八女市教育の日の趣旨にふさわしい取組を実施する期間として、11月1日から同月7日までの1週間を八女市教育週間とする。

（市の責務）

第4条 市は、前条の取組を推進するために必要な施策を講ずるよう努めるものとする。

（委任）

第5条 この条例に定めるもののほか、八女市教育の日及び八女市教育週間に関し必要な事項は、別に定める。

附 則 この条例は、公布の日から施行する。

4 八女市のめざす子ども像（教育の日条例）

八女市を愛し ふるさとに誇りを持つ子ども

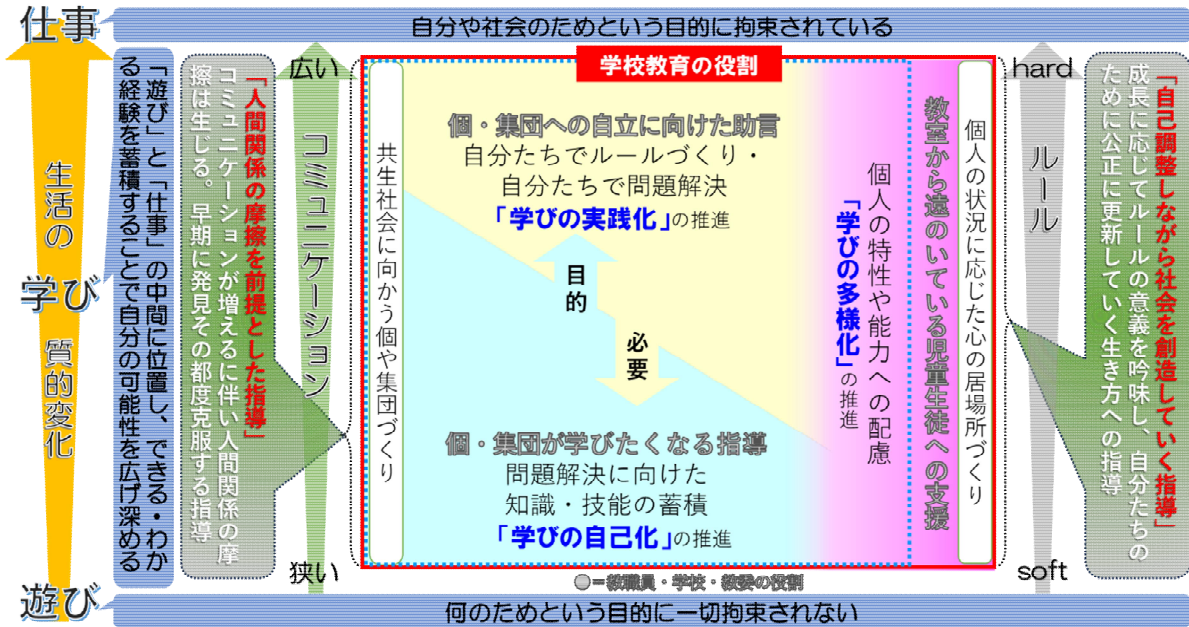
「八女市を愛し、ふるさとに誇りを持つ子ども達」の育成に努める。そのために、学校の授業のなかで、八女市の「よさ・素晴らしさ」について、発達段階に応じた学習や体験をすることに努める。

※「八女ふる里学」（小学校等）及び「八女茶学」（中学校等）の充実

八女市学校教育の基本的な考え方・理念

【基本的な考え方】

(図1)



【基本理念】

- 義務教育段階の学校は、集団の中で多様な価値観と触れ合いながら社会において自立的に生きる基礎を養う場所である
- 何らかの要因で既存の学校教育になじめない児童生徒には、社会的自立に向けて進路の選択肢を広げる支援をすることが重要である
- 正常な教育活動が保障されるためには、児童生徒を取り巻く環境、教職員の職場環境、その他必要に応じた環境整備が必要である

【学校における指導の基本的な考え方】

人間関係の摩擦を前提として克服する力をはぐくむ指導

- ・ 他者との関わりの中で生じる摩擦を経験し、考え方や価値観の違いを認め合う。互いに理解を深めるとともに、適切な距離感を保ちながら、社会的に生きる基礎的な資質を身につける。

自分たちで調整しながら互いに過ごしやすい社会を創造する力をはぐくむ指導

- ・ 自分たちの生活を円滑にするためのルールを、単に守るだけでなく、その意味や意義を深く考える。そして、時代や環境の変化に応じて公正に更新・再構築しながら、創造的に生きる資質を身につける。

※ これらの考え方や理念を実践するため図1に示す各エリアの内容を次ページ以降説明します

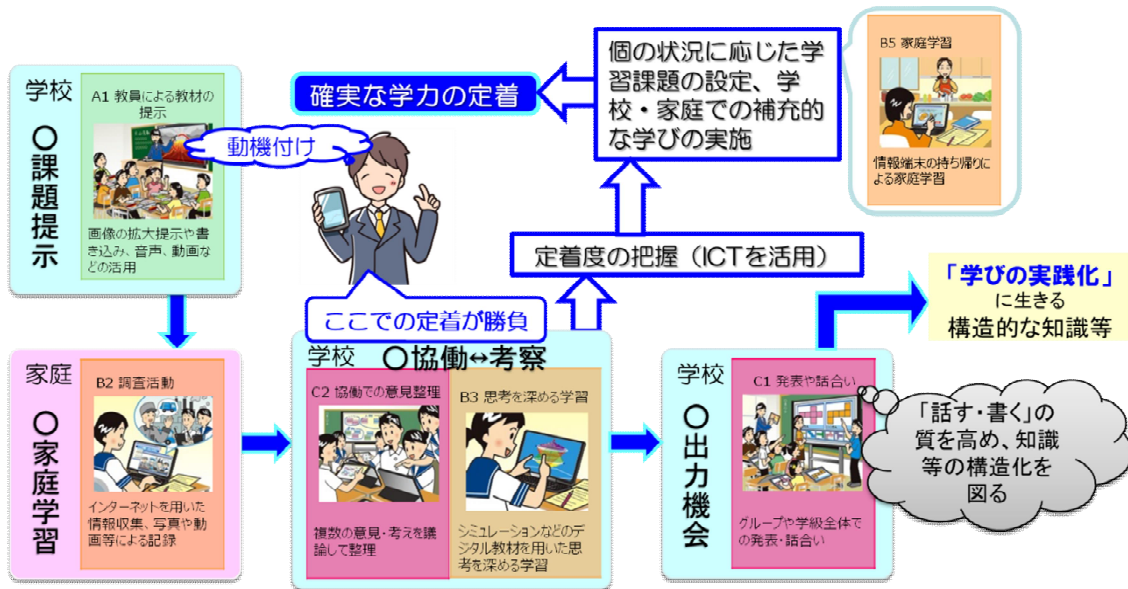
(図1) におけるエリアの説明

(ブルーエリア)「学びの自己化」の推進
 学ぶ意欲や態度に裏打ちされた、問題解決に向かうための基礎的な知識・技能等の蓄積

八女市の学校教育が目指す「行きたい学校・会いたい仲間・参加したい学び」のうち、参加したい学びの根幹をなすエリア。教師が多様な形で学びの場を工夫し、ICT、AI 等も有効に活用して児童生徒に応じた知識や技能の引き出しを蓄積させる活動です。

従来の授業に加えて以下のような学びを取り入れていきます。

【家庭と学校をつなぐシームレスな学び】(イメージ図)



個人用タブレットの持ち帰りを通して、家庭での学びと学校での学びをつないだ学習を取り入れていきます。また、ICT 等を活用して知識や技能の定着度を確認し、個人の状況に応じた課題等の設定を通して確実な学力の定着を図っていきます。

八女市の学力観【狭義の学力観から広義の学力観へ】

狭義の学力

知識・技能
思考力・判断力・表現力等

広義の学力

主体的に学ぶ態度
(粘り強く挑む/学びを調整する)

非認知的能力
目標達成意欲
自己効力感
ストレス耐性

健全な学力育成を支える必要条件

成功・克服体験
認め合う仲間
(安全・安心して親和的な空間)

見えやすい学力

見えにくい学力

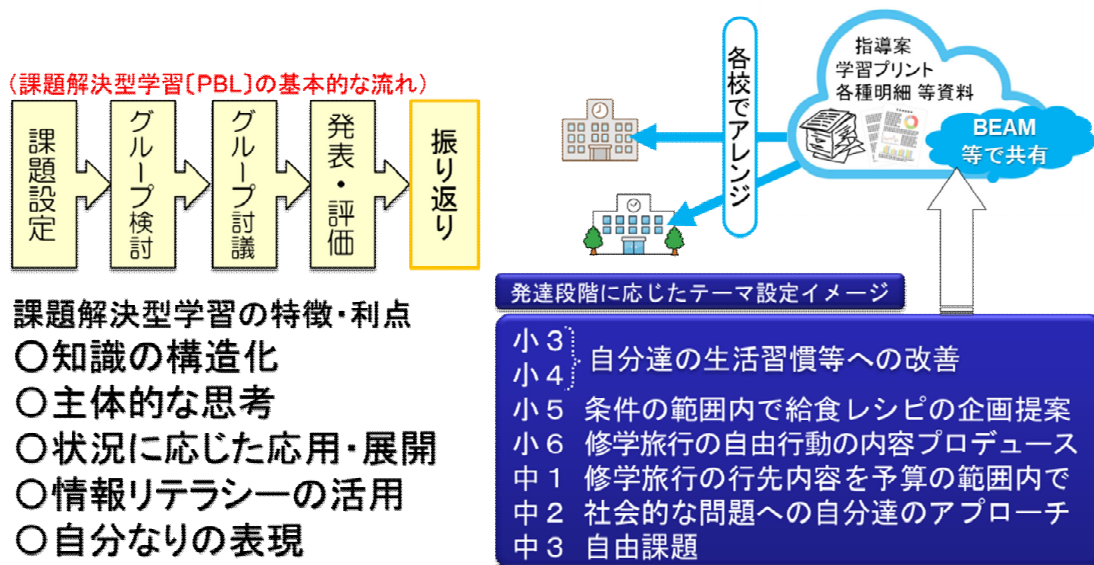
八女市ではいわゆるペーパーテストで表出される結果としての「点数」のみに着目することを改め、その結果が健全な学校教育に裏打ちされたものに着目します。
 そのためには、左図のように安全・安心な空間で、自分自身の可能性を信じ、学ぶことに関心・意欲をもって学校生活を送った結果として資質能力をはぐくんでいくことが重要です。
 このことを推進していくために、「八女市版心のアンケート」で安定した学校生活が営めているか、「非認知的能力アンケート」で自立的に学ぼうとする意識は育っているかの確認を行います。
 これらの見えにくい学力の上に、結果としての「点数」が伴うことを目指しています。

(イエローエリア)「学びの実践化」の推進
 主体性に裏打ちされた、知識・技能等を創造的に活用した思考力・判断力・表現力等の発揮

八女市の「学校における指導の基本的な考え方」を意図的に発揮して問題解決及び相互間の創造的な了解や納得解を獲得するエリア。教師は枠組みだけを提供し、仲間と意見対立等の摩擦を克服しながら、現状最適な共通理解を経て協働する活動です。

総合的な学習の時間等を活用して以下のような学びを取り入れていきます。

【探究・企画して協働して発信する学び】(イメージ図)



発達段階に応じて、児童生徒が自ら課題を発見し、その解決策や円滑な実践方法を考え、実践するまでの過程を重視します。正解のない課題に主体的に取り組むことを通して、将来に必要な力をはぐくんでいきます。

八女市の学力観【集団の平均値の比較から個人の伸び率の比較による学力向上へ】

IRT調査の特徴

小4から中3までに、学力のレベル(1つのレベルが3層に分かれる)を12段階設定し、各年度の学力のレベルの変容を見える化

学年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
レベル12						
レベル11						
レベル10						
レベル9						
レベル8						
レベル7						
レベル6						
レベル5						
レベル4						
レベル3						
レベル2						
レベル1						

1つのレベルは、それぞれ3層に分かれています。

白い部分が各学年の学力の調査範囲です。

学力的伸び

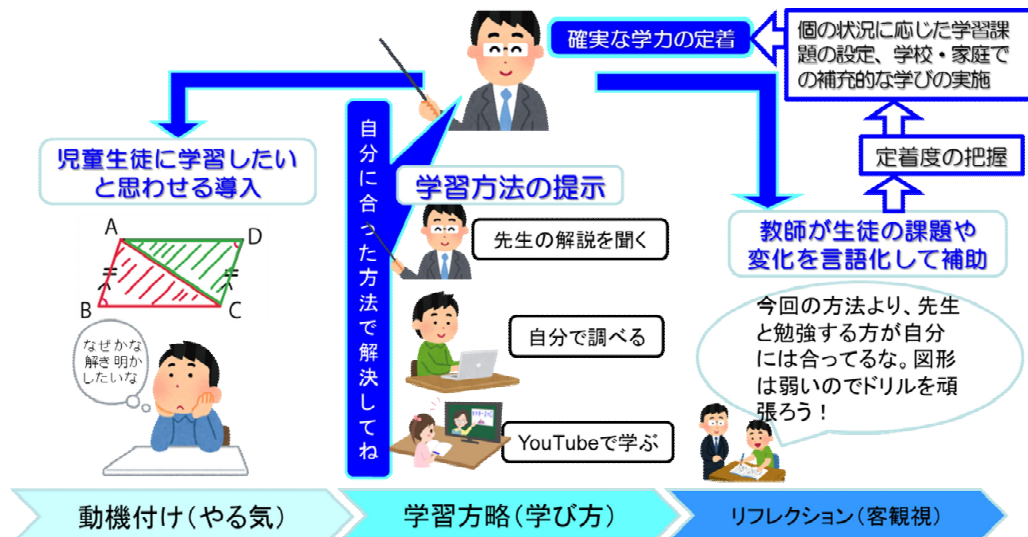
R4に測定した結果と、R5に測定した結果がこのようになった場合、この2つの結果の差が「学力的伸び」となります。

これまでの多くのいわゆる学力テストでは集団の平均点の比較で学力がついているか否かの判断がなされていました。今後は個人の状況に応じた学力の把握が求められ、IRT(項目反応理論)のテストが主流になります。これは左図のように個人が現在どの学力レベルにあって、それからどれだけ伸びたかを測る方法です。八女市では、集団の平均値は一つの参考数値として、個人の伸び率の変容に着目した学力向上を目指していきます。

(ピンクエリア)「学びの多様化」の推進
 個々の児童生徒に応じたきめ細かな支援や社会的自立へ向けて進路の選択肢を広げる支援

八女市の学力観「集団の平均値の比較から個人の伸び率の比較による学力向上」に応じ、個別最適な学びを生かそうとする試みです。また、既存の学校教育になじめない児童生徒に対して、それぞれの状況に応じた学びや社会的自立につながる居場所をつくります。

【学び方を選択して行う学び】(イメージ図)



学級の状態や発達段階、児童生徒の学びの状況、教師の経験や準備状況に応じて、共通のゴールをめざして自分に合った学び方を選択する学びを通して確実な学力の定着を図っていきます。

【学びや社会的自立につながる8つの居場所づくり】(イメージ図)



①～④は主に学びに向かう支援、⑤～⑧は主に社会とかかわる支援

(透明エリア) 「学びの正常化」の推進

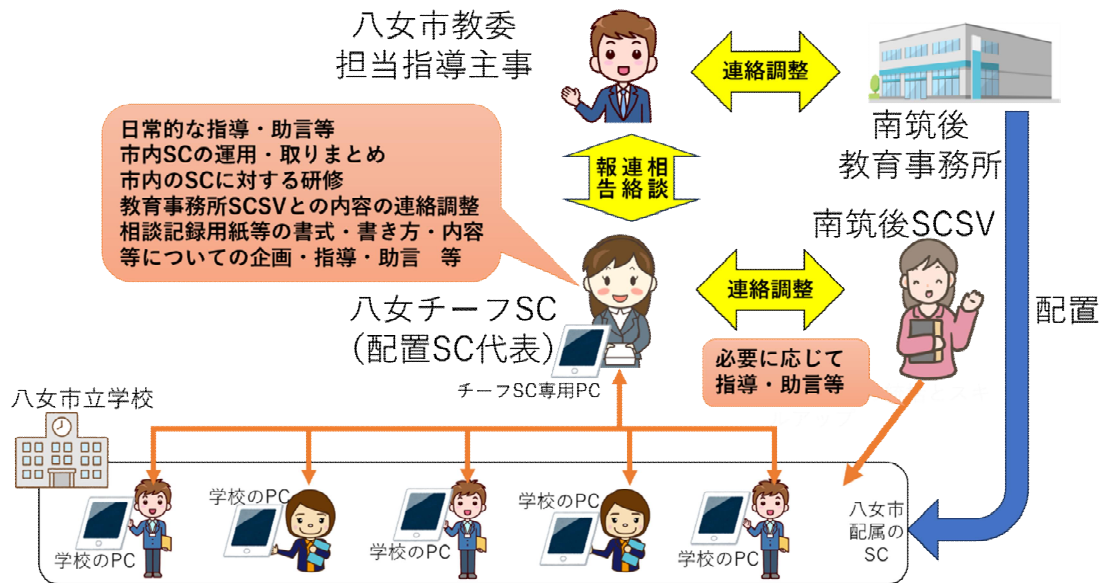
学校の正常な教育活動のために推進する児童生徒、教職員、保護者等を守るための方策

八女市の学校のよさを残しつつ、効率化や合理化をすすめ、児童生徒や教職員等の心のケアをきめ細かにいき、理不尽な要求や対応、時代に応じた教育活動の在り方を追求し、八女市の学校教育を支援する取組です。

【生成AI・ICTの校務への有効活用】(イメージ図)

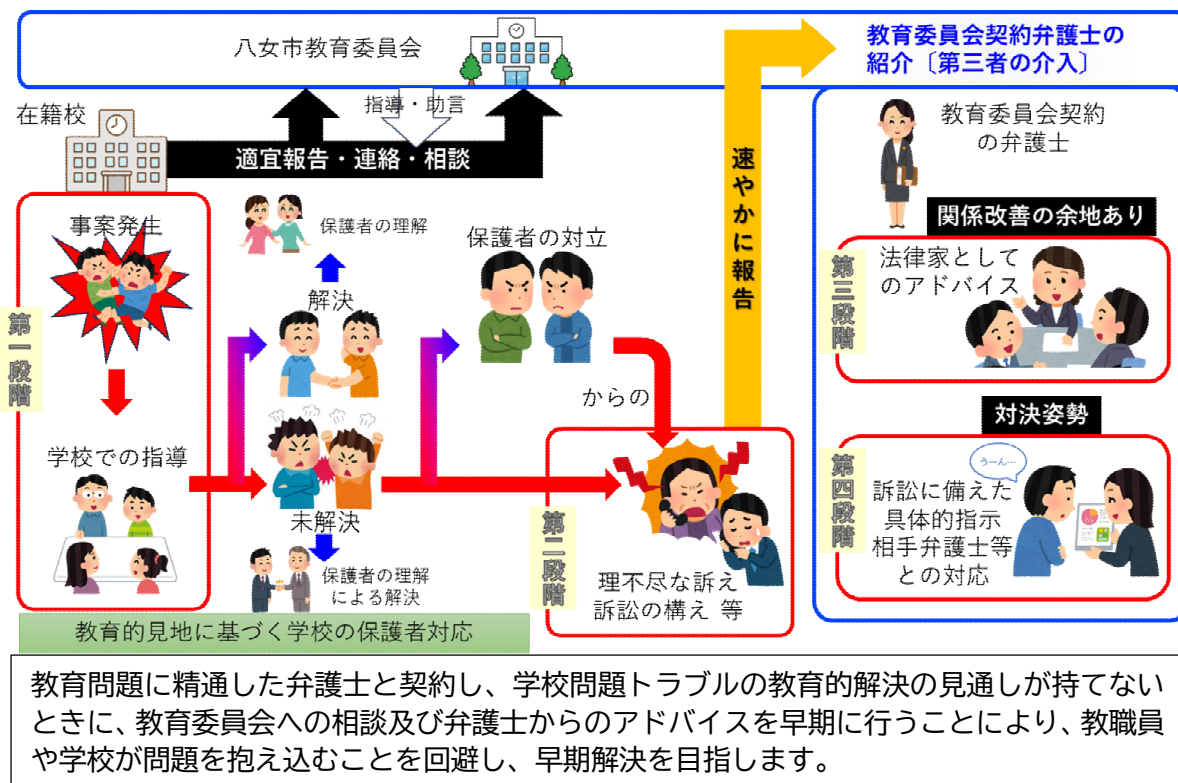


【SC支援体制整備】(イメージ図)

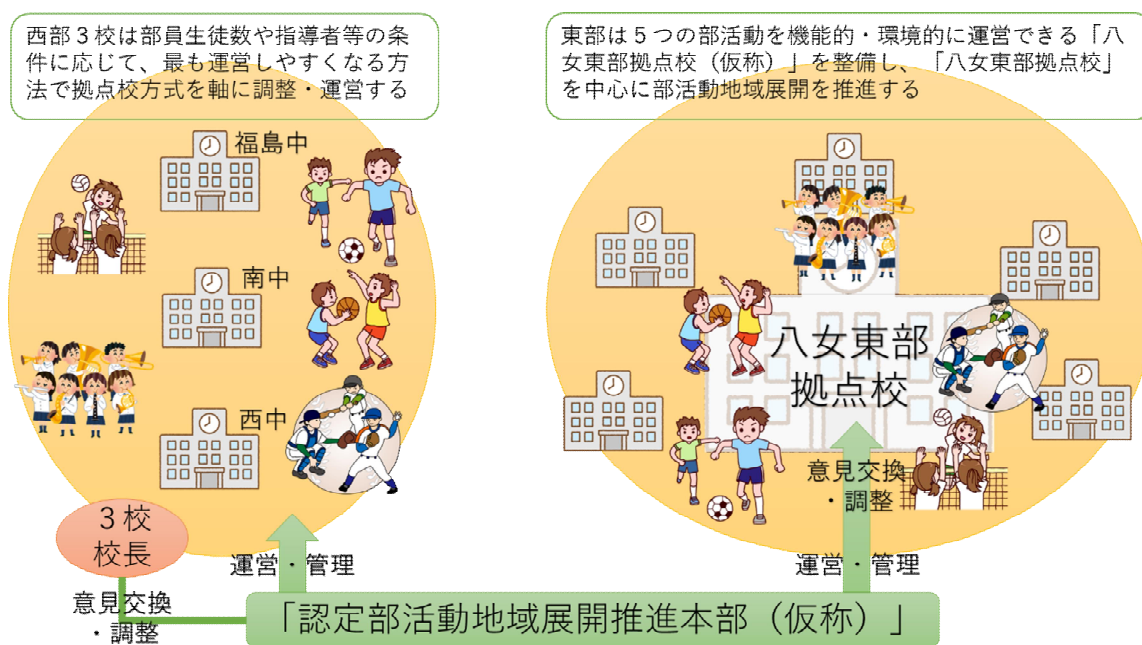


県から派遣されるSCの時間数に八女市独自の予算を充てて充実を図るとともに、八女市独自のチーフSCを任命して、八女市に配置されているSCの情報交換や力量向上に務めています。

【八女市版スクールロイヤー】（イメージ図）



【部活動の地域展開に向けた取組】（イメージ図）



部活動の地域展開に向け、児童生徒の減少が進む東部と維持できている西部の実情に応じた持続可能な部活動の在り方を構築します。併せて、教職員だけでなく地域の人材を生かした部活動経営の八女モデルを目指して推進しています。

八女市の学校教育の中期目標

「地域に信頼される学校、未来に生きる学び」

これまで説明してきたそれぞれのエリアを完成することを通して、「行きたい学校・会いたい仲間・参加したい学び」づくりをすすめ、「地域に信頼される学校」「未来に生きる学力のつく学校」を目指してまいります。

R8

R9

R10

八女市の学校づくり【特色と魅力のある学校づくり】

八女市立中山間地域の単学級で中学校・義務教育学校で、少人数（単学級）である機能性を生かし、少人数だからこそできる又は効果の高い特色を打ち出していきます。学校長や地域の方々等の協力も得ながら、学校の状況に応じて考察し特色化を図っていきます。

例えばこんな特色が考えられます

- 日常のコミュニケーションに英語を活用し、good morning から good-bye まで学校生活で英語のシャワーを浴びながら過ごす学校
- e スポーツ等児童生徒の多様な性質に応じて自分で自己表現できる機会を増やし、多様な場所がある学校
- 部活動の拠点として、他の学校からのメジャーなスポーツ・文化の部活動の受け皿として機能する学校 等

令和 8 年度 八女市の学校教育

1.

令和 8 年度重点目標

「学校の特色化と学びの多様化の推進・整備」

○学校の特色化の推進・整備

・中期目標にある「特色と魅力のある学校づくり」として、矢部清流学園を「日常的英会話を通して国際コミュニケーション能力を特化して推進する学校」としてモデル化します。次いで中山間部の単学級校に地域性等を生かした特色づくり（一校逸特プラン）を進めます。

○学びの多様化の推進・整備

・中期目標にある「実態に応じた環境づくり」として、学びの多様化を見据えた、八女の地域性に応じた 8 段階の学びの場（safety net 8 eye）を準備し、何らかの理由で学校から遠く児童生徒が社会とふれあい自立して生きるきっかけとなる居場所づくりを進めます。

○広義の学力向上の推進

・探求・企画して協働してプレゼンする学びを推進します。

○特別支援教育の推進

・教育サポートセンター機能を充実させます。

○学校再編の推進

・資質・能力の育成を中心に置いた小中一貫教育を充実させます。

○人権・同和教育の推進

○重層的支援構造モデル（生徒指導）の推進

○教職員育成の推進 他

2. 主な方針や施策等

- 「行きたい学校」「会いたい仲間」づくりに向けた指導・支援
 - ・ 八女市の環境条件等に応じた、段階的な不登校児童生徒の居場所づくりを整備
 - ・ 心のアンケート等による学級における児童・生徒の状況把握
 - ・ 月例報告等による児童生徒の状況把握と各学校における生徒指導の取組への指導・支援
 - ・ SSWを活用した教育サポートセンターとしての機能充実（関係機関との連携）
 - ・ 「いじめ問題専門委員会」「いじめ問題対策連絡協議会」の定期開催
 - ・ 不登校児童・生徒の状況に応じた支援による不登校出現率・欠席日数の減少
 - ・ SCの有効活用（要因分析）とSSWの有効活用（具体的支援）を活かした不登校改善サポートへの指導・支援
 - ・ 児童生徒を取りまく生活環境改善事業（R7～）
 - ・ 不登校対策校内支援充実事業（R6～ 黒木西小学校・上妻小学校）
 - ・ 不登校対策校内支援体制への指導・支援
 - ・ いじめの適切な初期対応と改善へ向けた組織的な取組
- 「確かな学力のつく学校」「参加したい学び」づくりに向けた指導・支援及び環境整備
 - ・ 総合的な学習の時間等における、PBLの過程を踏んだ学習過程実践への指導・支援
 - ・ 教育指導計画を基にした学校経営、校務運営、教育課程編成等への具体的な指導・支援
 - ・ 非認知的能力についての分析及び学力層に着目した学力の実態分析を基にした学力向上プランの作成と実施・評価に対する指導・支援
 - ・ 八女市版非認知的能力アンケート、全国学力・学習状況調査、福岡県学力・学習状況調査等諸調査の結果分析と児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす取組への指導・支援
 - ・ 課題対応訪問等による各学校の実態に応じた具体的な指導・支援
 - ・ 小中間の系統と4技能の総合的な指導を重視した外国語教育の推進
 - ・ 実用英語技能検定（英検：2級～4級）に係る検定料の助成
 - ・ 八女市独自の少人数指導教員や学校司書などの効果的な配置と活用
 - ・ GIGAスクール構想の実現に向けた授業改善とICT支援員と連携したICT教育の推進
 - ・ 課題に対する追求方法の選択や学びの定着度把握などへのICTの活用
 - ・ タブレットの持ち帰りを見据えたオンライン・オフライン学習への指導・支援
 - ・ 体力向上プランを基にした1校1取組運動充実のための指導・支援
 - ・ 中学校等部活動地域展開の積極的推進と中学校等部活動指導員の配置促進
 - ・ 水泳授業業務委託事業の実施
 - ・ 子どもと向き合う時間確保のための教職員の働き方改革の推進（余剰時数20時間程度の実施）
- **小中一貫教育の推進**
 - ・ 中学校ブロック（義務教育9年間）の学校教育目標及び目指す子ども像の設定への指導・支援（グランドデザインの見直しと発信）
 - ・ 小学校等における教科担任制の奨励
 - ・ 市立中学校、義務教育学校（後期課程）への進学率の向上
 - ・ コミュニティ・スクール（学校運営協議会）による教育活動の活性化と、地域学校協働活動との連携、充実
- **特別支援教育の推進**
 - ・ 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の推進
 - ・ 各学校、学級における合理的配慮の提供の推進（デジタル補聴援助システム、翻訳機器等の貸与）
 - ・ 特別支援学級及び通級指導教室における自立活動の充実
 - ・ 幼児教育・保育機関と学校及び学校種間の引き継ぎの徹底
 - ・ 学校の実情に応じた特別支援教育支援員の効果的な活用
- 「八女市を愛し、ふるさとに誇りを持つ子ども達」を育む取組
 - ・ 「八女茶に関するふるさと学習」の教育課程への位置づけと各学校の実践を参考にした取組の充実
- **人権学習指導資料の有効活用及び検証**
 - ・ 部落問題学習授業公開、いじめ問題学習授業公開の実施
 - ・ 活用状況等の調査

○ 推進施策

- ・ 就学援助制度の充実
- ・ 学校給食における食育の充実と地産地消の取組の充実

○ 教育サポートセンター

<教育研究所>

(1) 学習指導の力量向上と職務遂行能力の育成を図る研修事業

- ・ 【研究員任命によるリーダー育成研修】主題研究（仮説検証研究）を実践的に学ぶ定例研修
- ・ 【「職」が求める職務遂行能力育成研修】研究主任や特別支援学級担任に必要な専門的な技能や理念を学ぶ専門性向上研修（新規講座開設、悉皆・努力義務設定）
※小学校長会・中学校長会と連携して、従来の教頭講座と主幹教諭講座を校長会主催研修会に一本化
- ・ 【授業改善を実現する授業者育成研修】若年教員の基礎・基本を定着させ、指導力を向上させる授業力向上研修（新規講座開設、悉皆・努力義務設定）

(2) 八女市の教育課題の解決及び指導方法改善を図る調査研究事業

- ・ 【副読本「八女ふる里学」を活用した「ふる里学習」の推進】「八女ふる里学」の活用状況の把握
- ・ 【ICT機器を活用した教育の推進】ICT機器活用調査研究委員会
ICT活用実践事例集の活用状況やICT機器活用状況の調査 ※「ICT教育推進委員会」と連携

(3) 学校や教職員の教育力向上、及び教職員のハラスメント解消等に関する相談事業

- ・ 【教職員の指導力や学校経営の向上】指導方法、校内研修、教育論文作成等に関する研修相談
- ・ 【教職員の悩み解消と教育環境・職場環境の改善】教職員のハラスメント相談窓口の開設

(4) 福岡県教育研究所連盟等の研究実践記録収集と保管、教科用図書等の教育関係資料の整理

<教育相談室・教育支援センター「あしたば」>

(1) 教育サポートセンターとしての機能充実

- ・ 教育相談室と教育支援センターの業務内容の分業と協業
- ・ 教育研究所に教育相談室SSWによる研修講座を開設
- ・ 特別支援教育室と児童生徒の特性理解や支援の在り方を連携

(2) 「あしたば」通所生への学習支援及び社会的自立支援の充実

- ・ 学校との連携によるリモート授業や自主学習中心の個に応じた学習支援（タブレットの活用）
- ・ コミュニケーション重視の小集団活動による自主性・協同性・協調性をはぐくむ体験活動の充実

(3) いじめや不登校等に関する教育相談活動の充実

- ・ 各学校によるSC、SSWの活用
- ・ 学校や子ども相談室「あおいとり」、社会福祉協議会、障がい者基幹支援センター「リーバル」、地域支援センター「よろず屋」等関係機関との連携強化

(4) 児童生徒の性暴力被害に関する相談窓口の設置

<特別支援教育室>

(1) 学校組織及び教職員の特別支援教育力の向上

- ・ 学校組織や教職員の課題解決を図るための継続的な指導、支援
- ・ 校内委員会等における児童生徒の実態把握と支援内容・方法改善の検討
- ・ 学校からの要請等による教育相談、校内研修会の実施

(2) 保護者等への相談支援の充実

- ・ 学校や保育園等、行政各分野との連携強化
- ・ 発達や就学、進路等に関する相談会等の充実

(3) 幼児教育・保育機関と学校及び学校種間の引き継ぎの徹底

- ・ 来入児の情報集約と学校への情報提供及び環境づくりの支援

3. 奨学金

(1) 「八女市奨学金」

- ・ 月額8,000円を40名に支給

(2) 「大坪奨学金」

- ・ 学時に100,000円、月額25,000円を3年間（合計100万円）を4名程度に支給

4. 学校目標指数

※最終期待値は、第5次八女市総合計画（令和8～12年度）の最終年度の期待値

目標指数		現状値 (R7年度)	目標値 (R8年度)	最終期待値 (R12年度)		
学 力 の 向 上	小学校・義務教育学校前期	八女市版非認知的能力アンケート12月 「自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表する」	<R7年度6年生> 肯定的回答の割合 69.9%	<R8年度6年生> 肯定的回答の割合 72.0%	<R12年度6年生> 肯定的回答の割合 80.0%	
		福岡県学力・学習状況調査 ※値は、八女市の平均正答率÷県の平均正答率×100	<R7年度5年生> 県を100として 国 91.6 算 95.0	<R8年度5年生> 県を100として 国 93.0 算 97.0	<R12年度5年生> 県を100として 国 100.0 算 100.0	
		全国学力・学習状況調査 ※値は、八女市の平均正答数÷全国の平均正答数×100	<R7年度6年生> 全国を100として 国 102.1 算 98.9	<R8年度6年生> 全国を100として 国 100.0 算 100.0	<R12年度6年生> 全国を100として 国 102.0 算 100.0	
	中学校・義務教育学校後期	八女市版非認知的能力アンケート12月 「自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表する」	<R7年度3年生> 肯定的回答の割合 57.7%	<R8年度3年生> 肯定的回答の割合 60.0%	<R12年度3年生> 肯定的回答の割合 80.0%	
		福岡県学力・学習状況調査 ※値は、八女市の平均正答率÷県の平均正答率×100	<R7年度1年生> 県を100として 国 92.4 数 92.8	<R8年度1年生> 県を100として 国 95.0 数 95.0	<R12年度1年生> 県を100として 国 100.0 数 100.0	
			<R7年度2年生> 県を100として 国 91.9 数 95.5	<R8年度2年生> 県を100として 国 94.0 数 96.0	<R12年度2年生> 県を100として 国 100.0 数 100.0	
		福岡県学力・学習状況調査	<R7年度2年生> 学力を伸ばした生徒の割合 国 — 数 —	<R8年度2年生> 学力を伸ばした生徒の割合 国 60.0% 数 78.0%	<R12年度2年生> 学力を伸ばした生徒の割合 国 70.0% 数 80.0%	
		全国学力・学習状況調査 ※値は、八女市の平均正答数÷全国の平均正答数×100	<R7年度3年生> 全国平均を100として 国 94.7 数 90.3	<R8年度3年生> 全国平均を100として 国 92.0 数 96.0	<R12年度3年生> 全国平均を100として 国 100.0 数 100.0	
	不登校	小学校	不登校出現率 (復帰率)	2.6% (-) 1月末	3.3% (12.4%)	3.3% (12.4%)
		中学校		8.5% (-) 1月末	9.1% (11.6%)	9.1% (11.6%)

学校給食特色化事業

子どもたちの記憶に残る学校給食



【学校教育として】

- 地元の食材を使った献立
- 体験を伴った生産者の想いに触れる活動
- 自分たちで考案した給食レシピのプレゼンテーション
- 給食レシピを家庭で実践

これらの教育活動による「子どもの記憶に残る学校給食」の体現